

ごあいさつ

埼玉県保健医療部 部長 奥野 立

皆様、こんにちは。御紹介いただきました埼玉県保健医療部長の奥野でございます。

本日、ここに、埼玉県合同輸血療法委員会主催の第5回埼玉輸血フォーラムが、多くの皆様の御参加のもと、このように盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

また、皆様方には、日頃本県の保健医療行政の推進に、多大な御理解と御協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

現在、高齢化や医療技術の進展により血液需要が増え続けており、昨年度は、県内で25万1千人の方々から貴重な献血をいただき、医療機関に滞りなく血液製剤を供給することができました。

今後も、医療に必要な血液製剤を将来にわたり安定的に供給するためには、引き続き献血者の確保に努めるとともに、医療機関におきましても血液製剤の適正な使用を進めていくことが重要でございます。

県では将来にわたり必要な血液量を確保するため、学生ボランティアや県内プロスポーツチームの御協力をいただきながら、若年層を対象としたキャンペーンをはじめ様々な啓発事業を積極的に展開し、献血者の確保に力を入れております。

その結果、昨年度、本県の高校生の献血者数は13,451人と、6年連続で日本一となっています。

皆様方におかれましても、献血者の確保につきまして引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、平成25年5月現在、合同輸血療法委員会は全国44の都道府県で設置されています。「埼玉県合同輸血療法委員会」は平成21年7月に発足し、今年で5年目を迎えます。

発足当初から代表世話人をお願いしている埼玉

医科大学総合医療センター教授の前田平生先生には、埼玉県の血液製剤の適正使用について中心的な役割を果たしていただいております。改めてお礼申し上げます。

「埼玉県合同輸血療法委員会」は、県内の医療機関における輸血医療の特徴や問題点を調査・検討し、改善方法等を提言・助言する活動を続けておられます。また、今年度は、委員会のホームページを開設し、関係医療機関がリアルタイムに輸血に関する情報を共有できる仕組みを構築するなど、その活動のすそ野を広げてきておられます。

本日のフォーラムは、委員会活動報告、特別講演のほか、看護師の方々から「輸血業務における看護師の役割」について御報告いただき、輸血全体を考えるプログラムを予定しているとお聞きしております。

本日のフォーラムを通じまして、本県の医療機関における輸血の安全性対策がより一層推進されることを期待します。

埼玉県では75歳以上の後期高齢者と言われていらっしゃるお年寄りが60万人いると言われておりますが、干支がひとまわりする2025年には約120万人に倍増します。

こういった都道府県は埼玉県と神奈川県しかなく、埼玉県は、全国で最も早いスピードで高齢化が進むと見込まれています。

現在の720万県人口も、2050年には500万人台まで落ち込み、これまで経験しなかったような異次元での超高齢化が進行していきます。

そこで県では、県民がいつまでも健康で、いきいきと暮らせるよう「健康長寿埼玉プロジェクト」を推進するとともに、在宅医療をはじめ、質の高い保健医療サービスが受けられる体制を整備

するため、平成25年3月、第6次「地域保健医療計画」を策定いたしました。

この計画の中では、「血液製剤の適正使用の推進」を保健医療行政の主要施策として位置付けておりますので、その実現のため、引き続き皆様の御支援、御協力をお願いいたします。

結びに、本日御参会の皆様にとりまして、このフォーラムが実り多いものとなりますよう、また、埼玉県合同輸血療法委員会のますますの御発展と皆様の御健勝を御祈念申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。